

【事業概要】

水産資源調査・評価推進委託事業（国際水産資源） （試験研究費（受託事業））

柳澤和彦*

マグロ・カジキ類は、沖縄県の漁船漁業において水揚げ量・額とともに最も多く、本県の水産業における重要魚種となっている。一方で、高度回遊性魚類であるマグロ類・カジキ類の資源管理は県単独では対応が不可能で、国際的な取り組みが必要である。これを進めるために、わが国では国立研究開発法人水産研究・教育機構がその取り組みの中核となり、関係する道府県の水産研究機関や大学等と共同事業体（JV）を組み、水産庁から事業委託を受けている。

本事業では、広域回遊性を示すマグロ・カジキ類の国際的な資源管理に対応するため、JVに参画している各機関が、役割分担をして調査・研究を行っている。特に資源管理の必要性が高いとされている太平洋クロマグロ（以下、クロマグロ）については、本県の周辺海域が主要な産卵海域とされており、ここから得られる各種の情報は本種の資源管理上、極めて重要といえる。

そこで本県では、クロマグロ産卵時期に相当する4～7月に沖縄県水産公社で水揚げされる同種の漁獲情報調査（漁場位置、漁法、水温、漁船名等）、生物学的調査（尾叉長、体重、性別）、遺伝子解析に用いられる筋肉サンプルの採取を行った（図1, 2）。

また、本県の漁獲統計システムをもとに集計した漁獲情報（漁船名、漁法、漁獲量等）を取りまとめた。

さらに、調査船調査を行い、クロマグロの産卵時期にあわせて、2mリングプランクトンネットを用いた卵稚仔サンプリングを実施した（図3, 表1）。収集したデータおよび採取したサンプルは水産資源研究所に送付した。

本調査結果の詳細については、「令和3年度現場実態調査年度末打合せ」において報告を行った。またその内容については、「令和3年度水揚げ地のまぐろ・かじき・さめ調査結果」（日本エヌ・ユー・エス）に掲載されているので、詳細についてはこれを参照されたい。

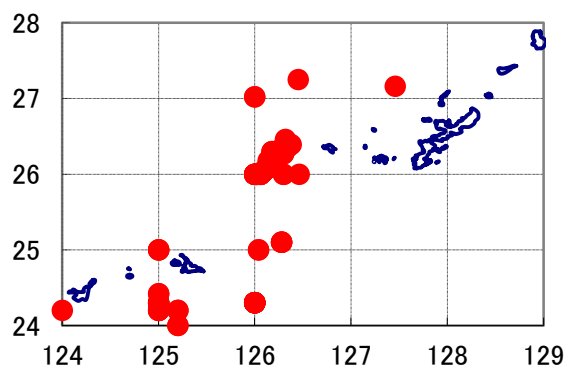


図1 2021年（令和3年）年の操業位置

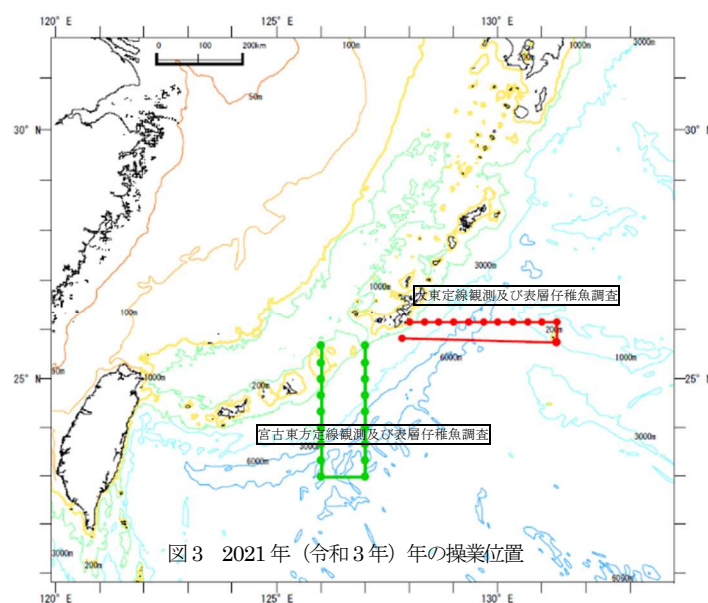


図3 2021年（令和3年）年の操業位置

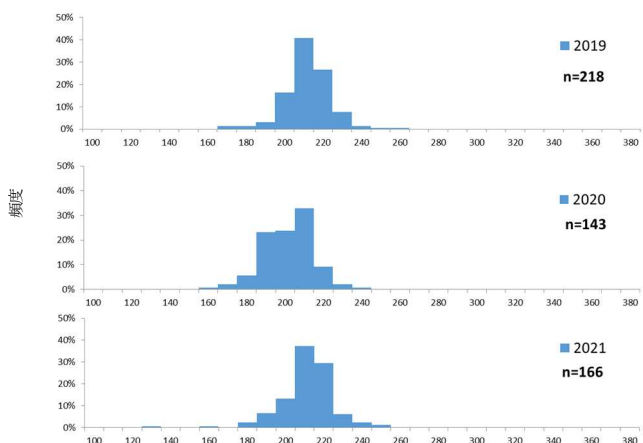


図2 過去3年間の体重組成図

尾叉長 (cm)

表1 2021年度に実施した卵稚仔調査一覧

調査海域（定線）	調査期間	月齢	調査内容	備考
1 宮古東定線	5/10-5/13	28.0-1.2	CTD, ADCP, 2mリングネット曳き	18定点
2 大東定線	5/18-5/20	6.0-8.0	CTD, ADCP, 2mリングネット曳き	13定点